

# 一関市の学力・学習状況の現状

(平成31年度全国学力・学習状況調査の結果より)

一関市教育委員会

調査実施日・調査対象 平成31年4月18日(木) 小学校第6学年、中学校第3学年

## ◆平成31年度調査の平均正答率と平均正答数

小学校 6年生	一関市		岩手県(公立)		全国(公立)		全国平均との差
国語	67%	9.4/14問	67%	9.4/14問	64%	8.9/14問	+0.5問
算数	65%	9.2/14問	66%	9.2/14問	67%	9.3/14問	-0.1問
中学校 3年生	一関市		岩手県(公立)		全国(公立)		全国平均との差
国語	73%	7.3/10問	74%	7.4/10問	73%	7.3/10問	0.0問
数学	55%	8.9/16問	56%	8.9/16問	60%	9.6/16問	-0.7問
英語	51%	10.8/21問	52%	10.8/21問	56%	11.8/21問	-1.0問

【小学校】国語は全国平均を上回っています。算数は全国平均をわずかですが下回っています。

【中学校】国語は全国平均並みです。数学と英語は全国平均を大きく下回っており、早急に課題分析や授業改善の検討が必要です。

- 今年度から知識活用一体型の出題形式となりました。制限時間内に問題文を読み込んで解く形に慣れる必要があります。
- 小学校は第5年生までに、中学校は第2年生までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべき力を測る問題です。
  - ① 調査対象学年のみでなく、下学年こそ授業改善について見直す機会
  - ② 子どもたちのつまずきと考え、それをどう改善していくか学校全体で具体的な分析や実践を行う機会と捉えましょう。

## 教科に関する調査・分析について

○ 誤答分析(つまずきの表出とそれに対応した学習指導の改善に向けて)

※ 解答用紙は「宝箱」であり、実解答は子どもたちの学びそのものです。子どもたちの視点に立って「何ができるようになったか、どのように成長したのか」振り返る視点を教師側がもち、教師側の「教えた」と子どもたちの「分かった」のギャップを埋めていくような学習活動の改善・充実に努めましょう。

○ ヒストグラムの活用

○ 解説資料や授業アイデア例の活用

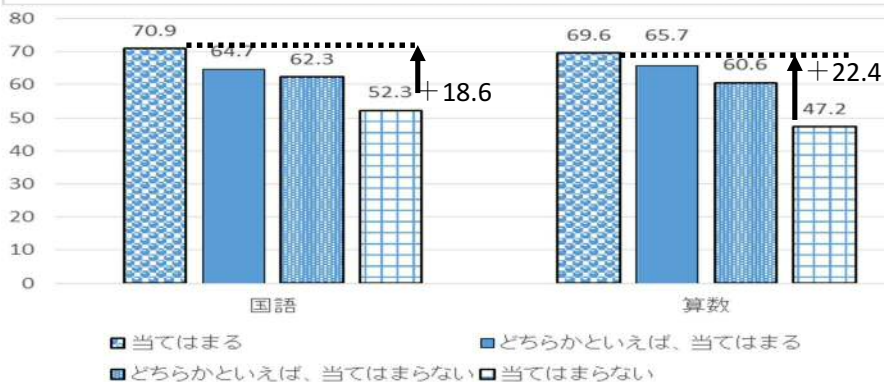
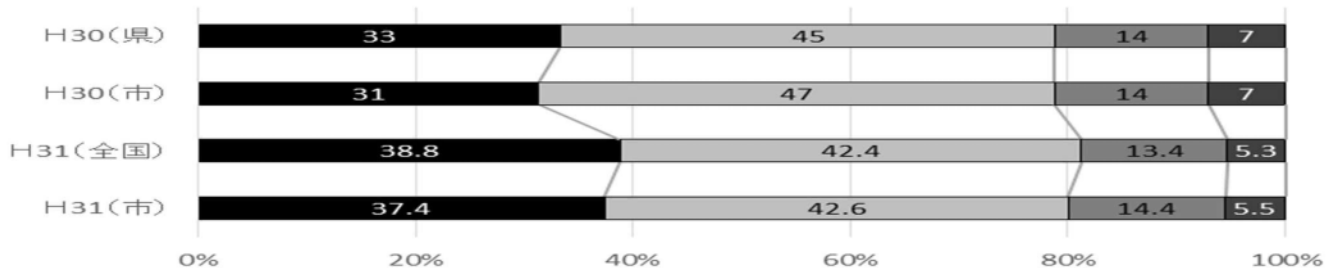




## いわて幸福関連指標の視点から（児童・生徒質問紙より 正答率とのクロス集計）

### (5) 【小学校】自分にはよいところがあると思う

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる  
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

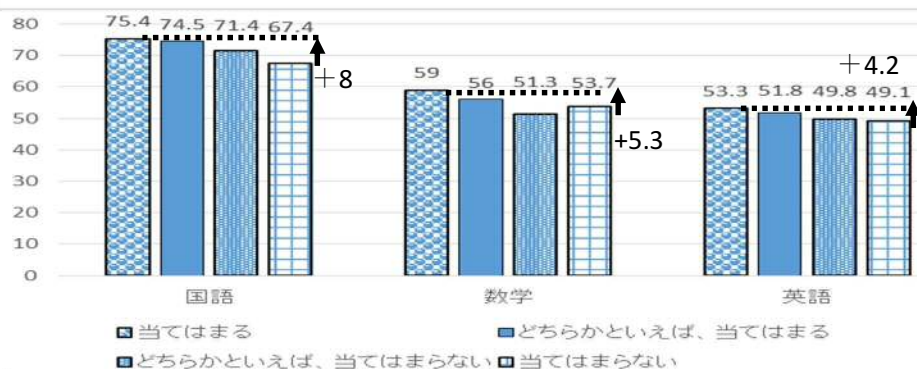
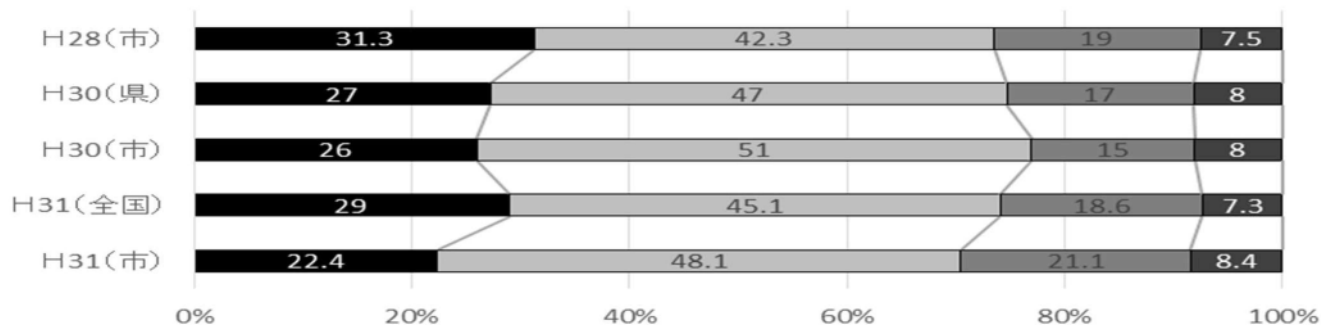


★小学校では昨年度の県学調と比較すると、積極的肯定回答が上がっています。

また左のクロス集計から、自己肯定感が高い児童ほど、国語・算数において正答率が高くなる傾向が見られます。

### (5) 【中学校】自分にはよいところがあると思う

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる  
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



★中学校では3年前の全国学調、昨年度の県学調と比較すると、積極的肯定回答が下がっています。

左のクロス集計から、小学校と同様、自己肯定感が高い生徒ほど、国語・数学・英語において正答率が高くなる傾向が見られます。

・クロス集計からは、自己肯定感の高い児童・生徒と低い児童・生徒で、約4～22以上の平均正答率の違いがありました。

・自己肯定感を高めるには、学校生活において「自己決定」させることや「自己有用感」に気付かせることが大切です。また、授業では「わかる」場面から「できる」場面を増やし、児童生徒に成就感や達成感を味わわせる経験をさせましょう。